

地域の支え合いについて 考えるきっかけに

1月23日、「みらい」文化ホールで「地域の支え合いフォーラム」が開催されました。

公益財団法人さわやか福祉財団理事長の清水肇子さんの講演では、高齢者が住み慣れた地域で最後まで暮らし続けるためには地域での支え合い、助け合いが不可欠であるとの説明がありました。

また、パネルディスカッションでは、日頃活動を行っている方々が登壇。日頃の実践報告と意見交換がされ、来場者はこれからの支え合い、助け合いのあり方について、改めて考えることができたようです。



笑顔で見送るサケの旅立ち

2月14日、利根大堰下流で、(独)水資源機構利根導水総合事業所と市の共催でサケ稚魚放流会が開催されました。

今年は太田東小の4年生13人の児童が、放流前に河川敷に落ちているビニールや空き缶を拾うなどの清掃活動をした後、紙コップに入ったサケの稚魚を利根川に優しく放流。子供たちは「たくさん戻ってきてね」と笑顔で稚魚の旅立ちを見送っていました。



思い切り手を伸ばして福を掴む

2月3日、行田八幡神社で毎年恒例の節分祭が行われました。

今年は進修館高校の吹奏楽部やダンス部、空手部の生徒たちがパフォーマンスを披露し、会場を沸かせました。またメインイベントである豆まきでは、袴を着た年男・年女が「鬼は外！福は内！」の掛け声とともに勢いよく豆を撒き、来場者は福をつかもうと思い切り手を伸ばし受け取っていました。



よりよい街づくりに向けた政策を発表

2月2日、「女性からの政策提言講座」の成果発表がVIVAぎょうだで行われました。

これは県主催の催しで全3回の講座やワークショップを通じて自分たちなりの政策をまとめるというもの。参加者は3つのグループに分かれ、それぞれアンケートの実施や話し合いを通じて政策案を深めてきました。発表会では高齢者向けの食事会や女性の自治会参加などを提案。よりよい街づくりに向け、自ら動くことの大切さを再認識しました。



「陸王」がつないだ新たな交流

1月19日、TBSテレビ日曜劇場「陸王」のロケ地の1つで、2万人を超えるエキストラが集まり「豊橋国際マラソン選手権大会」のシーンが撮影された、愛知県豊橋市の佐原光一市長が本市を訪問しました。

佐原豊橋市長は忍城址や水城公園などドラマのロケ地を視察した他、「観光情報館ぶらっとぎょうだ」では、撮影で使われた小道具などの展示を見学しました。「陸王」という一つの作品をきっかけにつながった両市。今後もさまざまな機会を通して交流を深めていくことが期待されます。



オリジナル反射材づくりで学ぶ 交通安全

2月7日、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社と協定締結した地方創生セミナーを活用した交通安全教室が、長野保育園で開催されました。

この教室には年長児が参加。交通安全講話を受けた後、ハートやTシャツの形をした白いストラップ反射材に、カラーの油性ペンで思い思いの絵や文字を書き入れました。子供たちは、暗い所でピカピカと光る反射材を手にし、完成を喜んでいました。



力作が一堂に

2月9日から12日まで、「行田グリーンアリーナ」サブアリーナで第20回記念公募行田市美術展が開催されました。

今回の美術展には絵画(彫刻を含む)・工芸・書・写真の4部門に全331点が出展。会場では多くの美術ファンがずらりと並んだ力作を鑑賞し、穏やかな時間を過ごしていました。